Eureka X

六年制通信　№19　令和４年９月22日（木）号

ベストを尽くしてみる

君たちは在学中に何度も「四大綱」について話をされると思います。私も繰り返し話していますね。ルールを守る、ベストを尽くす、チームワークをつくる、相手に敬意を持つ、これらがどうして教育の要となりうるのか、どうしてこれらを体得することが大切なのか、それを理解するには「これらがなかったらどうなるか」を想像してみるといいでしょう。四大綱に限らず「〇〇が大切だ」ということは、〇〇がなかったら私たちが何らかの局面で困ることになるということですよね。

ルールを守る、これがなぜ大切か、ルールを守らなかったらどうなるか、そう考えてみるわけです。世の中にある様々なルールを、もし誰一人守る人がいなかったとしたら、おそらく毎日莫大な数の人が死ぬでしょう。スポーツのルールも試合中に選手が死なないように作られているのです。少し考えればわかりますね。私たち自身も、周りの人も、命を失うことのないようルールを守って生きているのです。

チームワークをつくる、つくらなかったどうなるか、わかりやすいのはスポーツの場合で、絶対に試合に勝てません。君たちの日常でも、いつも言うように、チームワークをつくれない集団は周囲との相互作用が希薄になります。仲間との相互作用を通して一人では到達できない領域に達する、これが協働学習の原点ですが、その機会を失うことになります。相互作用というのは四六時中誰かとべたべたしている、一日中誰かとつながっていたい、などという子どもじみたことではありませんよ、念のため。

相手に敬意を持つ、持たなければどうなるか、SNS の世界の誹謗中傷を見ればよくわかります。匿名の世界というのは、そもそも自分の姿を消しているのですから、何らかの発信をしているのは、人間かどうかすらわからないわけです。きもっ。そこに「相手への敬意」など存在するはずがないのは当然です。匿名の世界とは、誰にもばれない、責任をとらされることもない、職を失うこともない、物心両面に何ら損をすることのない状態に身を置き、己の非才を恥じることもなく、他者を攻撃して喜ぶ腐敗した精神の持ち主だけが住める世界です。おえっ。そんな世界に身を置いてはいけません。私たちは他者への敬意を言葉や行動で表すことのできる人間であるべきです。教育を受けた人間はそうあるべきです。そういう人がジェントルマンでありレディなのです。

さて、ベストを尽くす、実はこれが厄介なのです。尽くさなければどうなるか、それを実感として知るためにもベストを尽くしてみる必要があるのです。ベストを尽くす、本気を出す、全力で取り組む、どんな表現でもいいのですが「自分でその気になっている」だけなのと「本当にそうしている」のとは違います。よく「やったらできる」とう

そぶく人がいますが、本気、全力、ベストの経験があればそんなことは決して言えません。また、目の前のことにベストを尽くすというのと、長期的な目標を達成するためにベストを尽くすというのでは、意味合いが違ってくるでしょう。ベストを尽くすということを定義するのは難しいのですが、精一杯の努力を続けて、もうこれ以上は肉体的にも精神的にもできないといった経験をすること、そう考えていいかもしれません。平たく言うと、自分の限界を知るということです。

残念ながら、人は、その才能について、全く平等ではありません。才能とは教えることが不可能な領域を、教えなくてもできる能力のことを言います。これはもう天から授かって生まれてきたとしか考えようがない、そんな能力を持った人がいます。肉体的にもそうです。努力ではどうしようもない場合がありますよね。ですから、私たちは自分でやってみないとわからないのです。人ができる、人ができない、それを見て、では自分もできる、自分もできない、それがわからないのです。自分がベストを尽くして初めて、できるかできないかが実感としてわかるのです。ヒルティによると「人生で最も大切なものは哲学的体系などではなく、個人の実践によって確信として深められる思想だけ」です。ベストを尽くした経験なしには自分だけの思想を深められません。

ただ、若いうちは全力を出そうとするのを自分で控えることがあります。仲間との対立を恐れる気持ち、集団とうまく折り合うために突出したくないという思い、そういう感情が成長しようとする自分を押しとどめてしまうことがあります。自分の能力の限界を知るための努力を、自分で控えてはいけません。自分の能力と正面から向き合う勇気を持って下さい。没頭すると新しい自分を発見する、と言いますから。

今週のおすすめ

・森　博嗣　　『森助教授 vs 理系大学生　臨機応答・変問自在』　（集英社新書）

実はこれ、私にはあまり面白くなかったんです。しかし、君たちは笑いながら読める気がします。若い人は面白がるだろうなと、そんな本です。学生に質問させて、先生が手短にそれに答える、全編そういう Q&A です。森先生は工学部建築学科の教官だそうで、目の前の学生は当然理系を選択してきた若者です。

Q 先生は言葉についてよく話をされますが、「見れる」と「見られる」の違いについてどう思われますか。

A 話をしている分には良いと思うし、文章で書いても、最近は馬鹿だとは思われないようです。

Q 寝つきを良くするにはどうしたら良いですか？

A 寝つきを良くする必要なんてない、と思うことです。

Q 「つまらない授業ですね」と言いながら、何故、笑顔で授業を進めるのですか？

A 仕事だからです。お金で雇われている。ボランティアではない。好きでしているわけではありません。学生は好き好んでお金を払って大学に来ているのに、どうして嬉しそうに授業を受けないのでしょう？

図書館に入れておきます。興味のある方はご一読を。

BGM は 映画「グリース」より の *想い出のサマー・ナイツ* でした…。